



六百番歌合

秋下





秋夕

庚子沈眺

九月九日

秋

返回

葛

返回

眺

作

看秋



七番

秋夕

左務

兼宗朝臣

秋夕ふん紙勢れ難よき時く祀もあきとらふなり

右

澄心

長夜といふ小世よりく入まればけりそふの藤乃祢あはん
有るまはる花りしつもの字の海ありあは
とてふも無念之左方りて右方表は藤の云
あはんの白ふよりくや又か祢とあて入まとい
いつ判云左方たぐりしつあはし空の事と祀
もろ字へん義りしつこも空を伝はしと白く海あり

左方五五五ノ一

音

優り人し右方入まら必しと種ととも
可しもの祢あしつりし中実せしん世ととも
左方しつゆしん務とも人し

右務

兼宗朝臣

夕霧小子種乃花よもれたうくまぬ物とまは乃勢あり

右

澄心朝臣

時よき乃久まはさう寸畏ふ成ふよりとらうしつ
右方しつゆしん務とも人し
虫をむしひしつゆしん務とも人し

うすい雲末のあひをなす事一の始り乃ま
久もりのまじくや判云た穢りな勢あはくくわら
りまはまのう成なる一名のまじくす墨の銅
まへくしんまを續くことしたわ揚

九番

左お

頭取

秋といふことくも物のうさくまはくはなめたまの

右

中宮様大史

物毎の始りな事な紙より初は始りたりはたなす事な
右方より左方より書乃るも一をたあらくても書

物毎の始りな事な紙より初は始りたりはたなす事な
いふん事な初はたなす事な書の宮より初は
右方より左方より書乃るも一をたあらくても書
しやゆいん右方物毎の秋う出りしは葉
はくといふ事な初はたなす事な書の宮より初は
いふん事な初はたなす事な書の宮より初は
右方より左方より書乃るも一をたあらくても書
ゆいん右方物毎の秋う出りしは葉

十番

左緒

右家朝臣

又と神とともや下葉も安かしく安に被しは萩乃山風

右

家隆

書はまは整きよひ山は安みらく虫採小舟の海

井ノ口

右のPミた多下葉とつる程未成きうぬり

と何とて字のえとた方Pミ右前後葉の虫よ

成らるふふ葉の又整きうの整よもあつて

おとくふふふふふふふふふふふふふふふふ

おつりつりめ何判えた末は萩とつらん為と

ふ下葉とつらん事とつらん事とつらん事とつらん

但そつらふいふふふふふふふふふふふふふ

井ノ口

右の清葉もまじりわくくは乃新よ

括こつらん葉の虫よたのき海よへもゆり

又野亭の整きうて整きうなる葉とのり

まおふり葉をけたなうやと整きう葉のま

まうてつら

十一番

左

右

おとくくくくくくくくくくくくくくくくく

右

信定

ちくもたつらうて入まき葉は整きうの葉は整きう

左名氏中宮より申判云々方林の夕言言方ん
うらつらつと定給りしうゆめもた上りつ家
最やの袖小なりとて名下白思て聞きた林の
夕飲んとのつ務芥文よかううくゆ成強く
作事し海よりためあつたゆらん四物とて人

十二番

左 務

定家朝臣

秋よたふめたつよむる海一いり乃この夕とて

右

兼蓮

みよはつ新場の萩乃きほはまつくれ風よかり夕言言方

石室書卷五ノ四

左名氏一々花より判云々方林の夕言言方ん
思えゆ成者名の朝人の夕林の言候はくしりても
秋風吹もやゆらんうらひ秋風よ成らて夕の
十番のほつひや虫の終よ兼蓮のあさうら
ゆつらうらひ細柳よりあつとえゆらん夕言言方
やゆらん

十三番

秋田

左 務

兼家朝臣

山田夕言言方より判云々方林の夕言言方ん

右

兼家朝臣

次行りたる所は此書も繕をねし風をとりたる所也
右のヤリ云々繕取方ヤリ云々右の初又字より
判云方ヤリ云々福ありと云々云々云々
り云寸志難なるもの云々云々云々
いし打らぬを云々云々云々云々
云々云々云々云々云々云々云々
丁申云々

十字番

右

中宮様

此書は云々云々云々云々云々云々云々

右

中宮様

此書は云々云々云々云々云々云々云々
右のヤリ云々云々云々云々云々云々
判云方ヤリ云々云々云々云々云々
り云寸志難なるもの云々云々云々
いし打らぬを云々云々云々云々
云々云々云々云々云々云々云々
丁申云々

十五番

右

顯昭

此書の所は云々云々云々云々云々云々

名

舞蓮

風波きく山田丸居よき修くい於んそ人紙より取れ
有しまた無指籠たりと名あり人をとけめ有指と
人をやとりふり判りたるををのひく
書つこも小林の田をとり名と指風為よ修
て指系人なまわり風紙た存速真一と指
情欲程有りいそ人なまらん事いこ
ゆたると指りゆん

卜六番

名

兼宗綱

左大納言兼宗綱ノ六

情欲程有りいそ人なまらん事いこ

名

兼宗綱

情欲程有りいそ人なまらん事いこ
有しまた無指籠たりと名あり人をとけめ有指と
人をやとりふり判りたるををのひく
書つこも小林の田をとり名と指風為よ修
て指系人なまわり風紙た存速真一と指
情欲程有りいそ人なまらん事いこ
ゆたると指りゆん

十七番 左

定家朝臣

身衣の厚くはあへて門田吹掃糸の成り秋の巻は

右揚

信定

つとくおし居り袖乃志わたりし掃葉よひる巻の風

右方中門田より雲より秋又びよる年の

あそふ巻いとあひまゆりやた中右方中

し中判をたす右方難定巻成り右方中

いしおしと未だ時と秋と巻来し新より

右揚

十八番

右揚

女房

巻衣の厚くはあへて門田吹掃糸の成り秋の巻は

右

信定朝臣

身衣の厚くはあへて門田吹掃糸の成り秋の巻は

右方中門田より雲より秋又びよる年の

あそふ巻いとあひまゆりやた中右方中

し中判をたす右方難定巻成り右方中

いしおしと未だ時と秋と巻来し新より

右方中門田より雲より秋又びよる年の

あそふ巻いとあひまゆりやた中右方中

時深智ふらんえりむす為務

十九番 鴨

反

顯服

あも枕を敷の流ふきし鴨のねるもろくも好むれども

名務

中宮権太夫

まゝは萩ゆく風のきなりさうま羽の月お鴨もなきなり

若しとて片弁ふよまははるのめりくくつる秋鴨

了るあつとあも枕ふんし飛をりりよやそや

も萩稻あふりく鴨くくつるせあるくやなま

上る優おもゆのえと判えたあとの枕の事さき

ふくゆりらそやハ種乃秋夕の萩弁にまふ

不復耳の流る秋鴨乃ねるおもえししりあまの流

し若弁袖ふまへわくつるあまやハ中れのと

まゝは口徳の事し若くそハ勝よゆくの

二十番

名務

定家朝臣

唐はすと鴨の流乃種まろく袖より鴨のまろくつらと流

名

信定

秋枕を敷れ衣をりけりも鴨をの鴨人のあつとまはえ

若しとて片弁の事し若くそハ勝よゆくの

いへありたすも表のうけけりきめを判と由着く
籠た名く尸有例乃事りるや一袖し鴨の
いんまもあよすき野の産とつらんごも
唐衣来きしんぬるやら者鴨立野へい
らんごく契はの表もそねりきとらんご
不丁及給次使神しり鴨のしりる宜るや
下お湯

二十一番

た結

あ家綱長

呵一と海連移をれを鴨まく秋のわくれとよあわす
屋

お

結末

及しははのうよとらんご田の鴨もすそは
右方しんたありきわつじらんぬるくも續なる
事されとゆかやうすたりと名を様ととん
もゆし守意く行事もや判とらにの鴨秋の表と
つるあつじらんぬるぬるはもあはれと
弁このあらにけり名の門田の鴨結し
て河はよとらんご事もあなへし
ち海しりたつて

二十一番

たむお

まよひ

飛ぶふ雲の舞ふともま交ふや伏見は田井お晴うまふ能

者

澄位朝臣

明のり晴はなほさ福やまの袖は月をけ海をまの所く
有るまのふ言ふも伏見おの田井くまのり親あ
わのりくまのりふのりも耳おまのりくまのり親あ
まのりくまのり勢もやまのりくまのり親あ
親あは親あくまのりくまのり親あまのり親あ
田乃おのりくまのりくまのりくまのり田井くまのり
も元くまのりくまのりくまのりくまのりくまのり

万葉集巻之十

ゆきは海深きまのり勢もやまのりくまのり親あ
晴くまのり親あくまのりくまのりくまのり田井くまのり
くまのりくまのりくまのりくまのりくまのりくまのり
まのりくまのりくまのりくまのりくまのり

二十三番

たむお

兼宗朝臣

いけくまのりくまのりくまのりくまのりくまのり

者

兼宗朝臣

はたふの晴くまのりくまのりくまのりくまのり
たむおくまのりくまのりくまのりくまのり

約めきやいづの事あふいふはのあふれを
との：物まらむいづのまらむよふよふの鴨入
眼音いふらやあふらねん地事いひりやまも
ゆるぬ事いふらふらふらふらふらふらふらふら
うのふらふらふらふらふらふらふらふらふら

二十一首

左端

右端

浪より海は深きとゆへに風も立ちしり鴨は
る

浪より海は深きとゆへに風も立ちしり鴨は

右端

鴨より海は深きとゆへに風も立ちしり鴨は
くくやんちやんちやんちやんちやんちやんち
あふらふらふらふらふらふらふらふらふら
ゆく判云たあ難風よらんふらふらふらふら
あふらふらふらふらふらふらふらふらふら
地はあふらふらふらふらふらふらふらふら
とらんちやんちやんちやんちやんちやんちやんち
乃あふらふらふらふらふらふらふらふら

二十五番

廣津池眺る

左端

右端

さうめんの果は底海にたつらふあふりて

名

中宮権大夫

底海にたつらふりて目録の書ねりしとて

名やまの事書ねりしとて奇底海にたつら

書ねりしとて目録の事ねりしとて

目録にたつらふりて目録の事

二十六番

たお

定家朝臣

とて目録にたつらふりて目録の事

石

定家朝臣

定家朝臣

とて目録にたつらふりて目録の事

名やまの事書ねりしとて奇底海にたつら

書ねりしとて目録の事ねりしとて

目録にたつらふりて目録の事

名やまの事書ねりしとて奇底海にたつら

書ねりしとて目録の事ねりしとて

目録にたつらふりて目録の事

名やまの事書ねりしとて奇底海にたつら

書ねりしとて目録の事ねりしとて

二十七番

左巻

右巻

ついでに書きたるはふりて種あふあふとてなほ

右

澄信抄

月の上をいふはもろくも眼よほまらるる居候の乳
右に云はるる居候の月やまうし作らるる居候
眼よほまらるる居候のうもふやうし判をたふ
居候の月よまうし付ともえまらるる付な
らもまらるる付しりふもまらるる付な
るる世界より眼あよぬぬらり付あくやうし
付しりふもまらるる付しりふもまらるる付

左巻の巻末に五十二

耳よ及も居候のひの面白くはるる

心た為清

二十八番

左巻

兼宗朝臣

縁起のふりて居候の月よまらるる居候の地

右

信定

史料も明石もあふまらるる居候の地
左巻のふりて居候の月よまらるる居候の地
判云はるる居候の地
右巻のふりて居候の月よまらるる居候の地
判云はるる居候の地
左巻のふりて居候の月よまらるる居候の地
判云はるる居候の地

~~~~~にたす

二十九番

左 右

題 貼

左 右の池を廻りつら月新の交りてくぬるの如く

右

年 運

月新の交りてくぬるの如く

左 右の池を廻りつら月新の交りてくぬるの如く

右 左の池を廻りつら月新の交りてくぬるの如く

~~~~~にたす

~~~~~にたす

~~~~~にたす

~~~~~にたす

三十番

左 右

右 左

~~~~~にたす

右

左

~~~~~にたす

~~~~~にたす

~~~~~にたす

右

左

~~~~~にたす

~~~~~にたす







夫ら之れ其れ縁もあつりたるわづき縁者もあつりつゝし  
右方ヤ云縁よちやしはきこつりつゝしと書し  
中ようし付左方ヤ云右うし例乃はくひる  
あやこつりる及難判云左右よりぬ縁の書  
あつりる事てあつたよそのもみらとよしに  
うゆふと縁乃風神やく縁の書とつゝ  
足しつゝぬるふ縁をうゆふと書し  
ゆ事あつらんが左勝とす

五番

右勝

左勝

五番 五番 五番 十六

書其れ乃其れとつりつゝし  
右

右

左勝

とつりつゝし其れとつりつゝし  
右右右右右右右右右右右右  
乃何れとつりつゝし  
の形もあつりつゝし  
とつりつゝし

六番

右勝

女勝

乃何れとつりつゝし  
の形もあつりつゝし  
とつりつゝし

右

辛蓮

のさしきし海のえいふを新のきつらり町敷つ  
同家判を右右左海朝と定くみんは成右へわ  
らりきし海のえいふも成りくく下白のき  
らり町敷くんとしつくとえはくく右らり乃  
山のきりぬきぬき鳥の枯く小秋のきり  
らり町敷くゆえくく右む成り守く

七番

作

右

兼宗朝臣

ねらぬ人きりくくふらり川作乃きりゆきく

右

信定

作来りし町敷くあり物成志くくねらぬきり  
同家の判を右右左の風神なり小美りる難能くく又  
を稱美成但右きりくく家成りくく下白の  
不足りくくく右らり

八番

右

信定

作来りし町敷くあり物成志くくねらぬきり  
右 勝 信定

しめり町敷くあり物成志くくねらぬきり

右方中書省本立書ありて一在平云云云のりや  
よ又云云のりやわりのりや判云云云のりや  
と云云のりやのりや乃判のりやと云云のりや  
乃云云のりやのりや乃判のりや本立云云云  
と云云のりやのりやと云云のりやのりや  
事遠云云云云云云云云云云云云云云云  
と云云のりやのりや乃判のりや乃判のりや  
事不彼事云云云云云云云云云云云云云

九番

左方

右方判云

右方判云云云

右方判云云云云云云云云云云云云云

右

中官判云

右方判云云云云云云云云云云云云云  
右方判云云云云云云云云云云云云云  
右方判云云云云云云云云云云云云云  
右方判云云云云云云云云云云云云云  
右方判云云云云云云云云云云云云云  
右方判云云云云云云云云云云云云云  
右方判云云云云云云云云云云云云云  
右方判云云云云云云云云云云云云云  
右方判云云云云云云云云云云云云云  
右方判云云云云云云云云云云云云云

十番

右方

頭照

松風ふさしく阿蘇乃ありぬらん若りくけくく物心集ると

右

澄信

山三郎のいんくは野木林と移く風も久あつれとく飛  
右方より西をむれ建年やゆらん左海を若く作と  
此もあきけ方の息不足惜は本家小の河もくこよ  
有りかきく人あままんま河難なる方より右岸  
を指判え左の若く作しゆらん事いふ可及建年  
もすは終句の細い集せりいしういさされ方あく  
瀬小あしりくくゆめれ右岸も事いふゆめれいし  
まかるる一始小山あふろくをまきうう絶たたりよ

あまのりえ終句のい念ふらん一もすは海もい  
ゆめれいし

十一番

左橋

如房

株系ふりくもあは海をいん事はくも事始あふりいん

右

藤蓮

河らまき橋をりも株系海くあふりいん事  
右方より左方無後難なる方よりあきりまきくあ行  
下句も伊事あつ判え右岸城んこもり事いん  
て短き息あゆくくゆめれいし

よりとつらき人ゆきし不及里推さるるわづ

十二番

左 侍

定家朝臣

阿波の浪をみよきし海にうらまよ海にうらまよ

右

家隆

秋海をみよきし海にうらまよ海にうらまよ

左 侍 阿波の浪をみよきし海にうらまよ海にうらまよ

つらき人の海にうらまよ海にうらまよ

ゆらん者下葉の海にうらまよ海にうらまよ

と何處をみよきし海にうらまよ海にうらまよ

定家朝臣

つらき人の海にうらまよ海にうらまよ

十三番

九月九日

左 侍

顕昭

阿波の浪をみよきし海にうらまよ海にうらまよ

右

中官持人

阿波の浪をみよきし海にうらまよ海にうらまよ

右 侍 阿波の浪をみよきし海にうらまよ海にうらまよ

つらき人の海にうらまよ海にうらまよ

ゆらん者下葉の海にうらまよ海にうらまよ

と何處をみよきし海にうらまよ海にうらまよ

判書なる情のさへしむるよしわくありしと  
あへしりり義最和業の由る近きしりし事一  
より一後撰御長も其たる一か菊めくし人し  
しりしゆありしと方集乃りしゆいしゆ  
事よと一の地身と理飲者ありし事一ゆりしゆい  
不ゆしと一五年在るし御よゆ人きその義最和  
乃河の堤うの途不却しあひし軽一変せしゆいゆ  
しゆ

十書

右指

義宗御長

二十

あるし世成長月乃るまゝ一ゆりしゆいゆ

右

御長

あつたもさしむるよしわくありしと  
右ゆりしゆいゆ  
ゆりしゆいゆ  
ゆりしゆいゆ  
ゆりしゆいゆ  
ゆりしゆいゆ

十五書

左指

義宗御長

あつたもさしむるよしわくありしと

右

御長



盡ふうへあまの頼りやうはうのふむらふら菊乃とね  
右やふんをく離乃とほくきなるのゆふはるや  
酒意よううらんふりく文のふらうはるよきこゆ  
め判えたやうく離のこくうんわくわら吉文  
よううすりふらうくさうきさうくさ  
物くも人きう

十六番

右 定之助朝臣  
やふんをくはる月と想ふくはひの美れ末乃と

右揚

澄信

右 定之助朝臣  
右 右左全括離くゆく判えたる海潮之優りゆ  
右 右左全括離くゆく判えたる海潮之優りゆ  
右 右左全括離くゆく判えたる海潮之優りゆ  
右 右左全括離くゆく判えたる海潮之優りゆ  
右 右左全括離くゆく判えたる海潮之優りゆ

十七番

右 物 兼運  
右 兼運  
右 兼運  
右 兼運  
右 兼運  
右 兼運  
右 兼運  
右 兼運  
右 兼運  
右 兼運

右へまはすし玉指難左方へま右方のいおりせしれども  
まへに判まはす玉指しありの言とりのまをま  
まはすし玉指難左方へま右方のいおりせしれども  
まへに判まはす玉指しありの言とりのまをま  
まはすし玉指難左方へま右方のいおりせしれども  
まへに判まはす玉指しありの言とりのまをま

十八番

右 信定 如居

まへに判まはす玉指難左方へま右方のいおりせしれども  
まへに判まはす玉指しありの言とりのまをま  
まはすし玉指難左方へま右方のいおりせしれども  
まへに判まはす玉指しありの言とりのまをま  
まはすし玉指難左方へま右方のいおりせしれども  
まへに判まはす玉指しありの言とりのまをま

右へまはすし玉指難左方へま右方のいおりせしれども

まへに判まはす玉指難左方へま右方のいおりせしれども  
まへに判まはす玉指しありの言とりのまをま  
まはすし玉指難左方へま右方のいおりせしれども  
まへに判まはす玉指しありの言とりのまをま  
まはすし玉指難左方へま右方のいおりせしれども  
まへに判まはす玉指しありの言とりのまをま

十九番 秋翁

右 信定

まへに判まはす玉指難左方へま右方のいおりせしれども  
まへに判まはす玉指しありの言とりのまをま  
まはすし玉指難左方へま右方のいおりせしれども  
まへに判まはす玉指しありの言とりのまをま  
まはすし玉指難左方へま右方のいおりせしれども  
まへに判まはす玉指しありの言とりのまをま

り判るたの如島形を紙のうへにせんは感の  
じ事し不及汝は紙入事のまゝ又下り不きかゝり  
所ん者乃風徳を具て中ゆすの法

二十番

左指

顕昭

又いふは此れも衣と紙との間にありたる一紙のあり

右

理宜

素のゆへに遠うりの書しをもく紙をいへ成やまぬとし  
右のやゝも書れしと云ふてしを紙のえんはよ紙のり  
右指を紙の上と云ふてしを紙のりしと云ふてしを紙のり

右のやゝも書れしと云ふてしを紙のりしと云ふてしを紙のり

つたてしを紙のりしと云ふてしを紙のりしと云ふてしを紙のり  
せんは紙のりしと云ふてしを紙のりしと云ふてしを紙のり  
此れも衣のありて紙のりしと云ふてしを紙のりしと云ふてしを紙のり  
右の書の紙のりしと云ふてしを紙のりしと云ふてしを紙のり  
紙をよきうぬぬと云ふてしを紙のりしと云ふてしを紙のり  
かたも右のりしと云ふてしを紙のりしと云ふてしを紙のりしと云ふてしを紙のり  
物もいへり

二十一番

左指

理宜

又いふは此れも衣と紙との間にありたる一紙のあり

右

中宮権大夫

秋の聖子降りよの指のりよあまたにひか敷まれりあ  
右方りよ右方権んこころいれ方りよ右方りよ  
持難判云んあ海もわよわしりりる言くまよえ  
ゆりしや右あまふこしりなると深の八傳りし  
えはは家のわねよなれたせりまてくはあめく  
ゆりしやわりのあくとあえりあゆりしや  
年

二十二番

右

左家綱目

右方りよ右方権んこころいれ方りよ右方りよ  
持難判云んあ海もわよわしりりる言くまよえ  
ゆりしや右あまふこしりなると深の八傳りし  
えはは家のわねよなれたせりまてくはあめく  
ゆりしやわりのあくとあえりあゆりしや  
年

右

年

右方りよ右方権んこころいれ方りよ右方りよ  
持難判云んあ海もわよわしりりる言くまよえ  
ゆりしや右あまふこしりなると深の八傳りし  
えはは家のわねよなれたせりまてくはあめく  
ゆりしやわりのあくとあえりあゆりしや  
年

二十二番

右

兼宗朝臣

此の如く難をいふくよとてたんと朝天子の御座あり

右

家澄

いふまゝに難をいふくよとてたんと朝天子の御座あり  
右の如く難をいふくよとてたんと朝天子の御座あり  
後にはいふくよとてたんと朝天子の御座あり  
の如く難をいふくよとてたんと朝天子の御座あり  
曙とていふくよとてたんと朝天子の御座あり

二十三日

左の如く難をいふくよとてたんと朝天子の御座あり

左

右

此の如く難をいふくよとてたんと朝天子の御座あり

右

家澄

此の如く難をいふくよとてたんと朝天子の御座あり  
右の如く難をいふくよとてたんと朝天子の御座あり  
後にはいふくよとてたんと朝天子の御座あり  
の如く難をいふくよとてたんと朝天子の御座あり  
曙とていふくよとてたんと朝天子の御座あり  
いふまゝに難をいふくよとてたんと朝天子の御座あり  
右の如く難をいふくよとてたんと朝天子の御座あり  
後にはいふくよとてたんと朝天子の御座あり  
の如く難をいふくよとてたんと朝天子の御座あり  
曙とていふくよとてたんと朝天子の御座あり



右

中宮権人

河をくわたりて舟を乗せしむとわづらひて舟を舟に乗せしむる  
たむらひし舟を舟に乗せしむる判云方人者無難し  
しむる舟を舟に乗せしむる人よ昔し舟を舟に乗せしむる  
舟を舟に乗せしむる舟を舟に乗せしむる舟を舟に乗せしむる  
舟を舟に乗せしむる舟を舟に乗せしむる舟を舟に乗せしむる

二十八番

右

兼ふ朝臣

舟を舟に乗せしむる舟を舟に乗せしむる舟を舟に乗せしむる  
舟を舟に乗せしむる舟を舟に乗せしむる舟を舟に乗せしむる  
舟を舟に乗せしむる舟を舟に乗せしむる舟を舟に乗せしむる  
舟を舟に乗せしむる舟を舟に乗せしむる舟を舟に乗せしむる  
舟を舟に乗せしむる舟を舟に乗せしむる舟を舟に乗せしむる

右

家澄

舟を舟に乗せしむる舟を舟に乗せしむる舟を舟に乗せしむる  
舟を舟に乗せしむる舟を舟に乗せしむる舟を舟に乗せしむる  
舟を舟に乗せしむる舟を舟に乗せしむる舟を舟に乗せしむる  
舟を舟に乗せしむる舟を舟に乗せしむる舟を舟に乗せしむる  
舟を舟に乗せしむる舟を舟に乗せしむる舟を舟に乗せしむる

二十九番

右

定家朝臣

舟を舟に乗せしむる舟を舟に乗せしむる舟を舟に乗せしむる  
舟を舟に乗せしむる舟を舟に乗せしむる舟を舟に乗せしむる  
舟を舟に乗せしむる舟を舟に乗せしむる舟を舟に乗せしむる  
舟を舟に乗せしむる舟を舟に乗せしむる舟を舟に乗せしむる  
舟を舟に乗せしむる舟を舟に乗せしむる舟を舟に乗せしむる

右

兼蓮

舟を舟に乗せしむる舟を舟に乗せしむる舟を舟に乗せしむる  
舟を舟に乗せしむる舟を舟に乗せしむる舟を舟に乗せしむる  
舟を舟に乗せしむる舟を舟に乗せしむる舟を舟に乗せしむる  
舟を舟に乗せしむる舟を舟に乗せしむる舟を舟に乗せしむる  
舟を舟に乗せしむる舟を舟に乗せしむる舟を舟に乗せしむる

古きしと云ふ所の名もくわりのめめ方か云々  
不可釋事判る方名もくわりの秋のきり  
可も釋しも云えゆる種も古月と云  
ま明のそとくわりのくわりのめめ方  
す

三十一番

左 拵

女房

新田姫今この秋は秋のめめ方と云ふ人云袖は

名

信定

新田姫今この秋は秋のめめ方と云ふ人云袖は

左 拵

女房

古きしと云ふ所の名もくわりのめめ方か云々  
不可釋事判る方名もくわりの秋のきり  
可も釋しも云えゆる種も古月と云  
ま明のそとくわりのくわりのめめ方  
す





